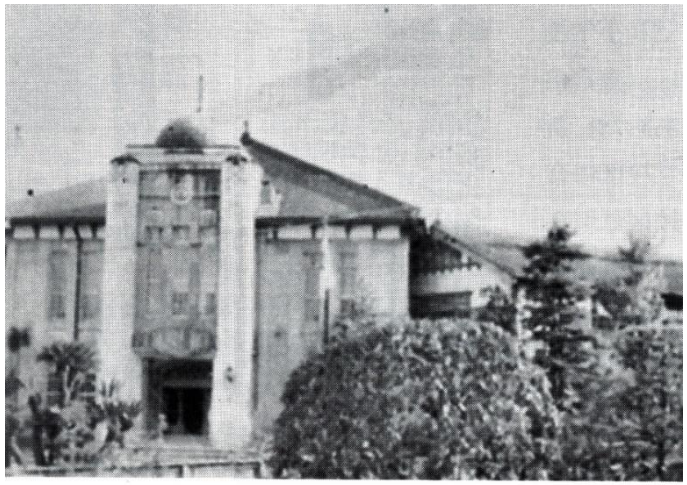
# 徳島市富田中学校のあゆみ Ⅰ 誕生（昭和20年代）

富田中学校は，昭和22年4月1日に新制中学校として開校しました。
終戦後のまだ間もない頃，校地・校舎・教室はもとより，
机も椅子も教材なども不足した中でのスタートでした。



1955年（昭和30年）頃の富田小学校本館

開校式には，新１年生を含めて８学級340名が臨みました。

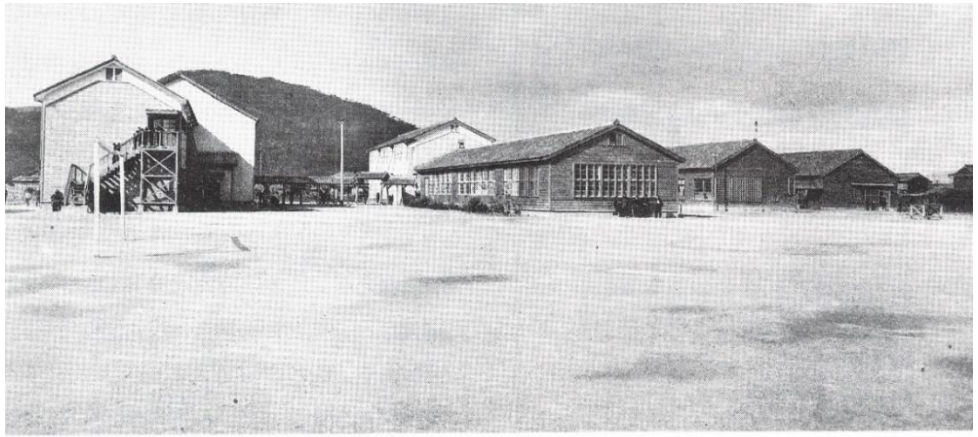
教職員は初代校長：岡本優太郎 先生以下17名（うち女性教諭は1名）での発足。富田小学校の西校舎を間借りしての授業が始まりました。

記録によると「教室は，富田小学校での間借・同居の時代。 校地もなければ校舎もない。金もなければ規則もない。帳簿もなければ……」「生徒は，床のうえに座り込んで，書物を読みノートを取るのが普通であった。手製の小机を担いで登校する生徒もいた……」とあります。

開校当時勤務された納田新八郎 先生によると，「いろいろやりくりが大変で，例えばチョークが十本しかなくて，今日一日中に一人一本の日もありました。それでも各先生方は必死で授業を進めました。」という指導風景でした。

昭和24年には校地が旧医専跡の現在地に決定。4月20日にまず３年生だけが移転しました。（創立記念日とされる）さらに続いた２年生とともに，地域の人から「富田中学校は，畑を作る学校か？」と尋ねられるほどに日にも日にも，奉仕作業に明け暮れて運動場を整地しました。

翌25年には，木造二階建ての６教室が完成します。そして8月14日。ついに，富田小学校に残されていた１年生も合流しました。また，同年度の入学生からは，新町小学校区が編入されました。



校舎全景（旧医専校舎をそのまま利用していた）

**校章**：昭和22年に市内一斉に誕生した新制中学校に共通して定められたマーク（一般公募）を，本校だけは切り替えずに維持して用いました。「中」の字が二線に分かれてるのは，徳島藩主旧蜂須賀家の旗印の二引にちなみ，徳島市章上部の二本線と同一にしていると言われています。